

みなさんは、「サザエさん」というアニメを知っていますか。毎週日曜日に放送されており、放送開始から四十八年以上もたっているアニメです。おそらく知らない人はあまりいないと思います。

私は先日、サザエさんを見ていて、いくつか気になったことがありました。そこで、そのことについて感話に書いてみようと思います

一つ目は、イクラちゃんというキャラクターについてです。一歳から二歳の間くらいで、男の子、サザエさんたち家族の親戚にあたります。基本的に三言しか話さず、少々ワガママな子です。この前見ていた話では、電車内で座りたいと言ってうそ泣きをし、皆を困らせていました。私は初めにこのシーンを見てイクラちゃんに対して少し腹が立ったのですが、その後少し考えてみると、子どもがさわぐのは当たり前のことだと思いました。私はそれよりも、それを注意しないイクラちゃんの両親が気になりました。お母さんのタイ子さんは、「だめよイクラ」と優しく言うばかりで、イクラちゃんは全然言うことを聞いていませんでした。やはり、悪いことをした子にはきちんと叱って、社会のマナーを教えるのが親としての責任なのではないかと思います。また、イクラちゃんのお父さんのノリスケさんも、サザエさんの家に勝手にあがりこみ、サザエさんたちのおやつを勝手に食べたりしています。子どもは親の背中を見て育つとも言うので、イクラちゃんのイタズラの度がすぎたり、言うことを聞かないのは、父親のノリスケさんのせいもあると思います。親は子どもに大きな影響を与えると思うので、見本になる態度をとるべきなのでは、と思いました。

二つ目は、サザエさんのお父さんの波平さんについてです。波平さんは典型的な日本男児で、よく息子のカツオを怒鳴っている、昭和の父という感じです。ですが、私からみると、波平さんは感情的に怒りすぎなのではないかと思います。ある日、波平さんは、玄関に落書きがしてあるのを発見し、すぐにカツオを叱りに行きます。しかし、その落書きの犯人は、カツオの妹のワカメで、そうと分かった波平さんは態度を変え、ワカメを叱りませんでした。私はこの話を見て、波平さんに対して不満を持ちました。確かにカツオはいつもイタズラをしているため、疑われてしまうのはしかたのないことだとは思いますが、よく調べもせずカツオが犯人だと決めつけワカメを叱らないのは、カツオがかわいそうなのではないかと思います。サザエさんのアニメは昭和時代から続く昔のアニメのため、昭和の父親はこうだった、という父親のあるべき姿がそのまま残っているのだと思いますが、それは今の時代の考え方と違っているので、このように違和感があったり、批判されたりするのだと思います。

結論として、ノリスケさんやタイ子さんのように、甘やかしすぎても子どもはワガママになっていくし、波平さんのように感情的に怒鳴りちらしても、子どもに恐怖心を与えたり、真意が伝わらないのではないかと思います。私もよく叱られますが、怒っている人が自分に向かって感情的に文句を言っているだけだと感じると、きちんと理解し、反省する気がなくなってしまう。文句ではなく、その人の成長を思って叱れば、相手に伝わり反省を促す

ことができると思います。

私もこれから先輩として後輩を叱ることもあると思いますが、ただ優しく言っても伝わらないし、怒鳴りちらしても効果はないと思うので、自分でもどう言えば一番伝わるのかを冷静に考えなければならないと思いました。